

学年	教科	科目	単位	担当者
3	外国語	English Conversation	1	Perry・山浦
The aim of this Course	The aim of this course is for students to get used to speaking by producing as much output as possible and practice for Eiken.			
Overview of the Course	<p>Using a sample card, students practice doing the whole exam in pairs, without any input from teachers. This allows students to try answer using the language skills they currently have and teaches them to actively produce language to complete a task.</p> <p>Break exam up into sections, using each subsequent lesson to focus on 1 or 2 sections at a time to allow students enough time to become familiar with each section.</p> <p>Elicit answers from students and highlight any “exceptional” responses.</p> <p>Provide model answers to students with explanations.</p> <p>Students can then compare their answers with model to notice what changes they need to make to improve.</p> <p>Students practice in pairs (and new pairs) to apply what they have learned.</p>			
Consideration	<p>In preparation for the exam, it is important to give students as much time as possible to practice speaking.</p> <p>Pairwork is probably the most efficient use of time.</p> <p>Teacher speaking time should be minimized and done to introduce tasks, explain important points, or give advice and feedback.</p>			
Tests & Exams	In-Class test			
Textbooks	Digital materials sent through Google Classroom			
Supplementary Materials	iPad			

Term	Month	Schedules	Contents
1	4		Eiken Practice Grade pre 2nd
	5		Eiken Practice Grade 2nd
	6	Mid term exams	
	7	Final Exams	Conversation practice with certain topics
	9		Conversation practice with certain topics
	10		
	11	Mid Term Exams	
2	12	Final Exams	
	1	No class	
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	進学理系	3	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体カテストが加わる。				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明) ○新体カテスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
	5		
	6		
2	7	現代高等保健体育	【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
3	11	現代高等保健体育	【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
	12		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1		
	2		
	3		

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	実用書道	3年進学	1	島田 一輝 佐藤敦子
教科書	・『きれいな文字の書き方』（書き込み式練習帳）宮澤正明 二玄社				
副教材	・硬筆筆記具 ・下敷きまたはファイル ・練習用ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 ○用具・用材に関する知識を身につけ、その扱い方を理解する。 ○書道の歴史を通して現代の実用に適する技術とは何かを学習する。 ○字形の構成・用筆法を学習し、技術を身につける。 ○硬筆及び筆ペンの技術の違いを学習する。 ○楷書及び行書の技術の違いを学習する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○習得した技術を生かし応用して書くことができる。 ○文化祭の機会を有効に活用し、作品発表をする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○授業に積極的に取り組もうとしているかどうか。				
考査	実施しない				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1～3学期: 観点①50% + 観点②20% + 観点③ 30%				
ト・評価の	観点① ○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。				
	観点② ○授業内で得た知識・技術を最大限活用できたか。文化祭での作品の鑑賞ができたか。				
授業のね	観点③ ○テキストを活用し、自主的に学ぼうという姿勢がみられるかどうか。				
	○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。				
	書道の実用に適う技術の習得とともに、丁寧な運筆による安定した心情を養うこと、さらに手書き文字特有の美を享受することで鑑賞眼も育てる。				
	「常用漢字書き方字典」等を参考にする。				

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 【楷書の法則】 テキスト50～57頁 【楷書の法則】 部分の組み立て テキスト50～57頁	実用書道の意義と持ち物等 ・線対象に近い文字の整え ・偏と旁
	5	【楷書の法則】 部分の組み立て テキスト62、63頁 【楷書の法則】 内外の組み立て テキスト66、67頁 【楷書の法則】 概形 テキスト69、82、83頁	・冠と脚
	6	【楷書・筆ペン】 テキスト46、47頁 【楷書・筆ペン】 テキスト104～107頁 【学園祭展示用の作品制作】	○テスト実施「楷書」 二字、三字または四字熟語を決め
2	9	【ひらがなの法則】 テキストひらがな部分 【漢字とひらがなの調和】 テキスト85、97頁 【履歴書を書く】	・字母を理解し、流れと骨格 ○テスト実施「ひらがな」
	10	【行書の法則】 【行書・筆ペン練習】 テキスト76～79頁 【のし袋を書く】 テキスト150頁	※筆ペンを使用
	11	【手紙文の練習】 【手紙を書く】	・手紙の基本構成 ・宛先を想定し、草稿を考えて ・便箋に清書

の確認
方

て用紙に清書。

各を意識する。

て練習

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理	進学理系	3	有田
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>单元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。</p> <p>公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。</p> <p>また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施				
	<p>上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。ただし、ただ問題の解法を教える授業ではありません。物理は一見たくさんの内容が詰まっているように感じられますが、それらは実は非常に少ないいくつかの原理の組み合わせから成っています。そのような物理の「本質」を発見させる授業を心がけます。そのために実験や演示を行いますので、それを通じて、「なぜ」と考えながら授業を受けて下さい。</p>				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理2章2節 音	音の伝わり方とドップラー効果
		物理2章3節光	光の伝わり方とその性質
	5	物理基礎3章1節	光の回折と干渉 レンズ 静電気
	6	物理基礎4章1節 電流	静電気と電流
		物理3章1節 電荷と電場	オームの法則、電気とエネルギー 電場中の導体
2	9	物理3章2節 電流	コンデンサー
		物理1章3節	電気回路と直流回路
	10	円運動と単振動	等速円運動
		物理1章4節万有引力	慣性力と単振動
	11	物理3章3節 磁場と電流	ケプラーの法則と万有引力 磁場、電流の作る磁場
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導,電気振動と共振
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	進学理系	3	水庭
教科書	「生物」第一学習社				
副教材	「セミナーノート生物」第一学習社 「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関するレポートを作成する。 必要に応じて小テストを実施する。				
考查・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。 進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。				
図書資料の活用	レポートの作成や入試過去問に取り組む際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・図説	①4月～5月中旬は「第6章遺伝子の発現調節と発生」について学習する。5月下旬～6月は「第7章遺伝子を扱う技術とその応用」「第8章動物の反応と行動」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて学習項目を確認したのち、問題演習を行う。
	5		
	6		
2	7	教科書・図説	①9月～10月中旬は「第9章植物の成長と環境応答」「第10章生態系のしくみと人間の関り」について学習する。10月下旬～11月は大学入試問題を通した演習を行う。 ②授業者は、教科書や図説を用いて学習項目を確認したのち、問題演習を行う。
	9		
	10		
	11		
3	12		

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	進学理系	2	岩野
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語』準拠ワーク(数研出版) 『TOP2500 三訂版』(いいずな書店) 『現代文単語 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字を正しく書け、語彙を適切に使えるようになる。(知識) ・文学史の中で作者の果たした役割を理解する。(知識) ・文章の構成や論理の運びを正しく理解できる。(技能)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章の内容を重要度の軽重を含めて理解できるようになる。(思考力) ・多くの選択肢から正答を選べるようになる。問いに的確に答えを出せる。(判断力) ・音声や文字を通じて他者に自ら理解したことを簡潔に伝えられるようになる。(表現力)				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・読書を計画的に進める。(計画性) ・他者と協働する事で、課題の解決を図ろうとする。(協調性) ・協働の末、自力で作成した成果物を期限内に提出する。(自律性)				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	【ねらい】 理系選択は「論理国語」2単位のみが国語の教科となる。授業の柱は大きく二つある。一つ目は、教科名どおり論理的思考に基づいて文章を読み解く力を養うことである。二つ目は、社会に出てから当然知っているものとして扱われるような近現代の代表的な文学作品に触れ、人間の思考の傾向や感情の奥深さに触れることである。これら二つのねらいを統合することで、現代の評論は近代の思考の葛藤を土台としていることを理解してもらいたい。そして、先人の考えを蓄積していくことは、自らの考えの幅を広げ、相手を受け入れる懐の深さにつながっていく、つまり生きる力を養うことであることを最終的には感じ取ってもらいたい。 【進め方】 右の「授業の計画」に挙げた教材は、進度によっては削る場合がある。副教材に基づいた小テストは随時実施する。				
図書資料の活用					

学期	月	教材	内容
1	4	◎「いき」の美学	
	5	...中間考査...	
	6	◎「文化が違う」とは何を意味するのか？	
	7	...期末考査...	
2	9	◎人はなぜ働かなくてはならないのか	
	10	...中間考査...	
	11		
	12	...期末考査...	
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学	進学理系	3	筒井
教科書	化学academia				
副教材	アクセスノート化学				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施				
	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
図書資料の活用	化学に興味のある人は以下の文献を参考にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・高校で教わりたかった化学(シリーズ大人のための科学) 渡辺正(著) ・亀田講義ナマ中継有機化学 亀田和久(著) 				

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	有機化合物とその構造 実験：成分元素の確認, アセチレンの反応
	5	プリント	脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族炭化水素 実験：アルデヒドの検出反応, ヨードホルム反
	6	プリント	酸素を含む脂肪族炭化水素
2	7	プリント	油脂と脂肪酸 実験：セッケンの性質
	9	プリント	芳香族炭化水素
	10	プリント	酸素・窒素を含む芳香族化合物 実験：フェノール類の検出, サリチル酸の反応
	11	プリント	天然高分子 実験：糖の還元性, レーヨン
	12	プリント	合成高分子 実験：ナイロン66
	3		

応

, アゾ化合物

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学IIIα	進学理系	4	宮山
教科書	数研出版 最新数学III				
副教材	3ROUND数学III				
評価基準	観点① 知識・技能 関数や極限、微分・積分に関する基盤知識をその原理とともに理解し、定着させる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 基盤知識を組み合わせて、解決に複数の基盤知識を必要とする問題を解くことができる。基盤知識が得られた原理を利用して、未知の問題を解くことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 基盤知識を理解し、定着させるための具体例を挙げることができる。未知の問題で与えられている条件や、問われていることを整理できる。未知の問題と既知の問題の違いを見つけることができる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを確実にとる。板書を写すだけでなく、教員の話で重要だと思ったことや、自身の思考の過程も必ずメモする。 ・地道さから逃げない。公式を原理を無視して覚えるのは厳禁！当然、原理の説明は授業でやります。 ・参考書を利用する際、チャートなどはおすすめしない。解き方をパターン化して覚えるのは数学の学習ではない。原理や発想の過程をできるだけ詳細に説明しているものを選ぶこと。おすすめは旺文社の総合的研究。 ・大学で露頭に迷わないように鍛えます。大学数学の一端中の一端を体験しましょう。 				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 容疑者Xの献身・東野圭吾 フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドゥニ ゲジ				

学期	月	教材	内容
1	4	数研出版 最新数学III 3ROUND 数学III	第1章 無理関数と分数関数 ・関数の概念をマスターする ・定義域と値域を理解する ・グラフが描ける ・グラフを利用して方程式と不等式が解ける ・同値変形にチャレンジする
	5		第2章 極限 ・「近似を厳密にしたもの」という感覚を身につける
	6		第3章 微分法とその応用 ・微分は「少しずつ差をとる」 ・三角関数や指数対数関数の微分ができる ・基本的な微分の技術をマスターする
2	9		・微分を使って増減表やグラフを描く
	10		第4章 積分法とその応用 ・積分は「細かく切って足す」 ・計算は微分の逆 ・区分求積法
	11		・線を集めれば面積になる ・面を集めれば体積になる
3	12		

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学III	進学理系β	4	木村
教科書	数研出版 数学B・数研出版 数学II				
副教材	3ROUND数学II+B その他プリントまたは参考書（のちに提示します）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。また、スケールテストでCランクに達する程度の問題、入試問題の基本事項を確実に解けるような力をつける。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。また、スケールテストのBランク以上に達する程度の問題、入試問題の応用問題に手を付けられるような力をつける。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施				
	上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	"1学期は数学B「統計的な推測」を扱い、終わり次第スケールテスト対策を行います。2学期は数学II「積分」「図形と方程式」、数学B「数列」「ベクトル」をメインに数学IIBの復習を行います。特に2学期は扱う単元を変更する場合もじゅうぶんに考えられます。また、入試や進学先で数学IIBが必要ない生徒も少なからず出てくることも考えられますが、その点は割り切って数学の学習に真摯に取り組んでください。"				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 数学的にありえない・アダムファウアー フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドゥニ ゲジ				

学期	月	教材	内容
1	4	数学B 3ROUND	統計的な推測
	5		スケールテスト対策
	6		
2	9	数学II	積分
	10		図形と方程式
	11	数学B	数列
	12		ベクトル
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	進学理系	2	花澤
教科書	数研出版 最新数学C				
副教材	3ROUND 数学III+C				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>複素数平面に関する基本的な知識（複素数をどう図形的に表現するか・複素数の和差実数倍とベクトルとの対応・極形式・複素数の積と回転・共役複素数の扱い・複素数の絶対値など）および2次曲線の基本的な知識（楕円、双曲線、放物線の定義式・離心率・極座標）について、授業と反復演習を通して定着させる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p>				
	<p>①で述べた基本的な知識が拠り所とする原理や論理を理解し、未知の問題に応用できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①②で述べた力を涵養するために、具体例を自分自身で挙げるができる。自力で解決することが難しい問題を友人との協議を通して解決することができる。</p>				
考査・評価	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
方法	<p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p> <p>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。 				
図書資料の活用	<p>基礎線形代数講座：線形代数 回転の表現 セガ開発部</p>				

学期	月	教材	内容
1		教科書および3ROUND	複素数平面 (適宜ベクトルの復習)
2		教科書および3ROUND	二次曲線 (はやく終われば入試問題演習)
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	進学理系β	2	和久井
教科書	数研出版 数学Ⅰ・数研出版 数学A				
副教材	3TRIAL数学Ⅰ+A その他プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 数学Ⅰ・Aで学んだ内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 数学Ⅰ…命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学A…図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、3TRIALのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、3TRIALのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	1学期はスケールテスト対策として数学Ⅰ・数学Aの復習を行います。 2学期は数学Ⅰ・数学Aの応用問題・入試問題に取り組みます。				

学期	月	教材	内容
1	4	数学Ⅰ	スケールテスト対策
	5		
	6	数学A	スケールテスト対策
2	9	数学Ⅰ	応用問題演習・入試問題演習
	10		
	11	数学A	応用問題演習・入試問題演習
	12		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	English Communication III	進学理系	4	草地
教科書	FLEX English Communication III(増進堂)				
副教材	FLEX III Workbook Standard(増進堂) ターゲット1400(旺文社) レシピー(POLYGLOTS)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 初見長文を時間内に正確に読める。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業中に音声活動やペアワーク活動に参加している。 授業の復習を行っており、授業で扱った表現を口頭でアウトプットすることができる。 レシピー等の課題に取り組むことができる。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 予習は基本的に不要、復習を重点的に行う。その際、口頭でのアウトプットに重点を置くこと。 授業の流れは、単語学習→リスニング→リーディング→解説→音読（知識の定着）→音声でのアウトプット（2年次とほぼ同様） 				
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り扱ったテーマと関連する書籍を読むことを勧める 				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEXIII	L1 Potential Uses of Optical Illusions L2 Expanding World Population
	5	FLEXIIIの長文読解演習	L3 What Makes a Hit Song? (L3は長文読解演習)
	6	FLEXIII	L4 Visas for Life L5 How Have Butterflies Survived?
2	7	FLEXIIIの長文読解演習	L6 Mr. Price Meets Jakuchū (L6は長文読解演習)
	9	FLEXIII	L7 Sustainable Lifestyle of the Edo Period
	10	FLEXIII	L8 Why Do We Lie?
3	11	FLEXIII	L9 In Defense of Zoos L10 Eco-friendly Farming of Bluefin Tuna
	12	FLEXIIIの長文読解演習	L11 A Brief History of Humans (L11は長文読解演習)

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現III	進学文理	3	田代・増村・伊藤
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)				
副教材	五訂版 英語演習ノート GREEN版 - 英文法の定着 - (数研出版) レシピー (POLYGLOTS) チャンクで積み上げ英作文 Standard (三省堂)				
評価基準	観点① 知識・技能 チャンクのかたまりをとらえることができる。 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。 英検Writingの形式を理解している。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 構文を理解できている。 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 英検Writingの形式に合わせて意見論述ができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピーのWriting課題に積極的に取り組んでいる。 授業で積極的に発言、参加をする。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	5/30 (金) に一斉受験する英検2級に向けて、Writing (意見論述・要約) の演習を行う。レシピーにて課題配布。 「チャンクで積み上げ」を最初の10分で解いて解説。1日1ページを目安に。 8/29 (金) 実施のスケールテストに向けて、「英語演習ノートGREEN」で基礎的な文法項目の反復演習を行う。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	GREEN チャンクPart1ドリル1~12	1.文の種類 2.基本5文型 3.時制 4.完了形 5.助動詞
	5		
	5/21 (月) ~24 (土)	6 GREEN チャンクPart2ドリル13~24	6.受動態 7.不定詞 I 8.不定詞 II 9.不定詞 III 10.動名詞
2	7		
	7/5 (土) ~9 (水)		
	9 GREEN チャンクPart3ドリル25~36	11.分詞 12.不定詞・動名詞・分詞 13.比較 I 14.比較 II	
10			
10/14 (火) ~17 (金)	11 GREEN	15.関係代名詞 I 16.関係代名詞 II 17.関係副詞 18.仮定法	
12			
		12/2 (火) ~5 (金)	

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。 一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する
教材 教具	<input type="checkbox"/> iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) <input type="checkbox"/> マイナビテキスト「探究の進め方」 <input type="checkbox"/> 昨年度から使用している探究ノート <input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する 授業の流れ(概要) 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する 授業の流れ(概要) 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

三学期	
-----	--

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <p>①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。</p> <p>②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。</p> <p>③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。</p> <p>④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。</p> <p>⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。</p> <p>⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。</p> <p>⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。</p>	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。